

2023 年度賛助会へのお誘い

特定非営利活動法人 SAJA (NPO 法人サヤ)の目的にご賛同いただける方は、是非賛助会にご入会ください。当法人の目的は、在宅の精神障害者に対して、地域生活支援に関する事業を行い、併せて障害者の自立と社会経済活動への参加を図ることを通して、精神保健福祉の増進に寄与することです。主な事業は事業所ホームページ (tanpopo-saja.com) をご覧ください。

賛助会年会費は 2,000 円です。ご入会いただいた方にはたんぽぽの機関紙「LIFE」(年 2 回)をお届けします。何卒ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

会費のお支払方法…①郵便振込(申し訳ありませんが、振込手数料のご負担をお願いします。)

口座番号：01680-5-57087

加入者名：特定非営利活動法人サヤ

②当事業所窓口にて支払い

地域での販売活動



★社会就労センターよりお声掛けいただき、7月15日(土)に、香川トヨタ丸亀田村店にて店内販売をさせていただきました。今年5月より月に一度、イベントとしてお菓子を扱う福祉事業所が交替で販売しています。

★7月22日(土)には金山夏祭りに出店しました。たんぽぽは3年ぶりに参加することができ、光るおもちゃくじが子どもたちに大人気でした。関係者の皆様、いつもお声掛けありがとうございます。

★8月5日には天満天神社の夏祭りに参加予定です。地域の方々が楽しめる販売ができること、地元のお祭りが帰ってきたわくわく感など、とても暑い日が続きますが、夏は楽しく感じます。



フェイスブックはこちら



バザー出店時や当事者研究、インプロ等など、活動報告はフェイスブックにて行っています。半年に一度のLIFEではたんぽぽのエネルギーが足りない!というあなたにぜひ。

今回のLIFEのテーマカラーは青、挿絵のテーマはバリ島の夏です。行ったことはないのに、空想上のバリ島です。前回のLIFEから半年が経ち、書ききれないほどのイベントがありました。お祭りやイベントに参加できることの楽しさはもちろんのこと、来てくれた子どもたちの楽しい思い出のひとつにたんぽぽが含まれていたなら、とても嬉しいです。次回のLIFEも内容豊かに報告できるよう、地域に向かって活動していきたいです。(H.Y)

LIFE

第73号 2023年8月1日発行

特定非営利活動法人SAJA (サヤ)
就労継続支援B型事業所 たんぽぽ
〒763-0066 丸亀市天満町1-2-31
TEL: 0877-22-2840
HP tanpopo-saja.com

「たいせつなこと」

理事長 村井 肇子

日頃は当就労継続支援たんぽぽの諸活動に対しまして格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて当事業所ではこの夏3年ぶりに様々なバザーに参加し、少しずつですが従来の活動を再開してきています。今年度は他事業所見学、日帰り旅行、クラブハウスなど、昨年までコロナ禍で出来ていなかったイベントも企画しています。もちろん、引き続き感染症対策の気は緩めずに様子を見ながら再開し楽しめたらと考えています。

研修会も以前とは違い対面研修が増えています。対面研修になりますと他事業所の取り組みの話など情報交換がしやすくなります。自分の実践の振り返りや新しい考え方などを知る機会でもあり、それをまた事業所に帰って共有し今後の取り組みに活かせます。以前のように職員交替で積極的に研修会に参加していきたいと考えています。

先日、全国精神障害者地域生活支援協議会(あみ)主催の全国大会にオンラインで参加しました。印象に残ったのは、大会委員長の『「精神障害者」の「障害(バリアー)」とは、「精神疾患を持つ方との対話をあきらめた私たちの眼差し」ではないでしょうか?』という言葉です。大会テーマは『「チャンスはピンチの顔してやってくる」~まくとろそけー、なんくるないさ~』でした。「正しい事、真(誠)の事をすれば何とかなるさ』『挫けずに正しい道を歩むべく努力すれば、いつか良い日が来る』』という意味です。このテーマどおりにはなかなかいかない困難な現状がありますが、だからこそどちらにしても正しい事をしなければやる意味はないと大会を通して参加者の皆さんと再確認し、その正しいことは何なのかなど学びの多い研修会でした。

「誰もが主役の地域社会を目指して」というスローガンを大切にこれからも挑戦していきます。今後とも皆様様の変わらぬご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

まるがめ子育てフェスタ

主任 小西 靖代

2月23日アイレックスにて子育てフェスタが3年ぶりに開催され参加してきました。子育てフェスタは今回8回目を迎え、子育ての支援団体、企業、行政が、一体となった参加型イベントです。感染対策のため各ブース3名までとのことで、スタッフ2名メンバー1名で、焼き芋、クッキー、手作り雑貨を販売しました。コロナ禍でお客さんは来るのだろうかと不安はありましたが、各ブースでの企画やキッチンカーなど、様々な催しがあり、たくさんのお客さんの方たちで賑わっていました。私たちが休憩が取れないくらい忙しさと、クッキー、焼き芋はほぼ完売でした。お客さんの中には「たんぽぽのクッキー、カフェで買ったことある。美味しいよね!」「駄菓子屋のたんぽぽさんよね!」などたくさんの方に声をかけていただきました。イベントに出るとたくさんの方に知ってもらい、声をかけてもらえることが、今後の活力になっています。コロナも5類となり、人の動きも以前のように戻りつつある中で、たんぽぽの活動も少しずつ戻していけたらよいなと思っています。

当事者研究ミーティング

副理事長 西谷清美

6月17日(土)に実施した当事者研究ミーティングは参加者7名でした。久しぶりの当事者研究ということもあって、まずはグループでアイスブレイク、この1カ月間に起こった嬉しい出来事というテーマについて話し合いました。

参加者の気持ちと体がほぐれたところで、弱さの情報公開、そして苦勞ネームの発表と進み、今回は「片づきたいのに片付けられない病」を研究テーマに討論しました。



個人情報保護の観点から報告はここまで!!! (笑)

インプロ

施設長 村井響子

7月1日(土)13:30~15:30、「インプロ」が四国学院大学社会学部、仙石先生の主催で開催されました。メンバー5名、劇団オムツかぶれの劇団員の方2名、副理事長、スタッフ2名の計11名の参加でした。最初に今日の元気度とその理由、ニックネームを自己紹介しました。その後、イスの隣に座った人と同じ人にならないようにするゲーム、サンキューゲーム、私は「木」ですゲーム、手の温度や善人、悪人の順番に並ぶゲーム等、様々なアイスブレイクをおこないました。お互いに気持ちがとてもほぐれました。その後、CROW「人物・関係性・目的・場所」を2人1組で設定して即興劇をしました。また、そこからTILT「傾き」を作るというインプロをしました。「その場、その瞬間で互いに遊び合う」ということを大切にしているということでした。少し難しく、普段使わない頭を使いましたが、終始笑いの絶えない楽しい時間を過ごしました。インプロは2、3ヶ月に1回、四国学院大学の仙石先生の主催で開催され参加者は毎回楽しみにしています。

ちょこっとコラム

副理事長 西谷清美

絵に描いた餅、食べたいな!

社会を発展させる力のない者、労働力としての役割を十分に果たせない者、教育や福祉の投資に応えられない者、適者生存の法則から脱落している者を如何にして選び出すかという課題にこたえるべく用意されているのが「能力」の概念であり、テストや診断基準やスケールという道具です。これらの道具そのものが進化論的状况を作りだすために存在しているとも言えます。

進化論的状况とは何かというと、能力の高い者は競争社会に適応して生き残り、より能力の低い者は生存競争に敗れ排除(淘汰)されていくという適者生存の流れを指します。ここでいう能力とは、社会の発展と進化に貢献、寄与するための集団行動や生産活動に従事し、よりよく機能していくための能力であって、それらは個人の強みや関心、得意な事柄に焦点を当てた能力ではなく、言ってみれば適者生存の世界を生き抜くための種々の能力(知力、理解力、習得力、競争力、稼働力、生産力、適応力等)ということになります。

これらの能力をある種のテストや診断、スケール等の基準に照らして評価することで、その結果に一応の科学的根拠が得られることから、これらの道具を使ってあらゆる人々を選別することが可能になります。そして、そこでひと度「能力に問題あり」と診断されると、予め周到に用意されている特別な枠組みの中で、「それ用」のプログラムやサービスを受け取ることが許されます。特別な枠組みの具体例としては、障害者福祉(障害福祉サービス)や特別支援教育等が挙げられます。そこでは、人々は時に患者と呼ばれ、またある時はクライアントとか利用者と呼ばれながら、それら特別な枠組みの中で、特別な人として、専ら治療や訓練、何らかのプログラムや教育の対象として扱われます。能力の問題は、決してそのまま放置されることはなく、対人関係から就業や身のまわりの管理にいたるまで、社会適応や常識、専門的評価基準等に照らして改善や向上が求められます。そこで目標として設定されるのは社会適応ですが、目標に到達することは殆どありません。何故なら、特別な人々の社会適応は、そうではない人々の社会適応の定義を複雑、多様にするからです。

このように考えてみると、全ては適者生存の世界で自らが適者と自負する人々によって作り出されたストーリー(神話)だということがわかります。残念なことですが、このことを意識しない限り「共生社会の実現」は、いつまでも絵に描いた餅でしかないのです。



ダンテライオンズ再演



山崎春菜

丸亀市にあります生涯学習センターにて2023年5月12日、13日の2日に亘って「ダンテライオンズ」が再演されました。話の本筋は同じでしたが、演者さんが少し変わったり、演出に関しては去年よりさらにパワーアップしたものとなりました。感染症対策もあり座席の間隔を広くとり、ゆとりを持たせ1公演につき100席を用意しましたが、2日間とも満席の来場となったようです。また、会場前の広場にて、販売もさせていただき、販売チームも活躍しました。これほどたくさんの方々にたんぼぼを知ってもらえる機会は滅多にないので、とても良い啓発のチャンスになったと思います。さて、ここからはたんぼぼの俳優の方からの報告です。

香西健作

5月13日、演劇「ダンテライオンズ」が終わりました。1ヶ月前くらいから、練習を始めて、今回は2回目なので、簡単に、流れを思い出しやすいような練習でした。5月11日に「ゲネプロ」といって、本番と同様に止めずに通して練習をして、5月12日、13日の本番となりました。

感想としては、前回の本番より、自分を見つめ直す時間が多く、自己の理解がよくなりました。学生さん、スタッフの皆さんとも仲良くなり、まるで昔からの『戦友』のような気になりました。ありがとうございました。

前田潤一

まさか自分の半生が演劇のストーリーになるなんて…。それが率直な気持ちでした。ダンテライオンズでは、実際に存在する自分にとって生きがいとなった登場人物をみんなで忠実に演じていただけました。自分のストーリーであるからこそ思い入れもひとしおでした。演劇を観た人からは、私をさらに分かってもらうことができ人生観が理解しやすかったようです。たんぼぼは、多年草なので綿毛がまたどこかで芽吹き公演されれば光栄です。

今では、趣味はなんですか。と尋ねられると、演劇鑑賞と役者を演じきることでと返すようになりました。ダンテライオンズの続きも毎日過ごしていると自分のこころの中で演じるようになっていきます。苦勞もありましたが演劇に私は今、はまっています。



めろフェス

精神保健福祉士 山崎春菜



5月28日(日)、宇多津町の障害児等放課後デイサービス事業所メロディーさんにお声掛けいただき、メロディーさん主催のバザー「めろフェス」に初めて出店させていただきました。めろフェス自体はコロナ禍ということもあり3年ぶりの開催だったそうです。徳島県や高知県の事業所の方々もおられ、アートの特化した販売・活動がされているようでした。また、丸亀周辺の有名な飲食店さんが何件も販売に来られていて、販売の合間を縫い、お買い物を楽しみました。お客さんとして、多くのメンバーが駆けつけてくれており、わいわいと過ごすことができました。